

卓越大学院プログラム 令和3年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成30年度	整理番号	1814
機関名	国立大学法人長崎大学	全体責任者（学長）	河野 茂
プログラム責任者	北 潔	プログラムコーディネーター	有吉 紅也
プログラム名称	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

○プログラムの目的

グローバル化が進行する中、新興・再興感染症をはじめとする疾病・健康不安が、途上国・先進国等を問わず地球規模課題となり、国際社会が協調して課題解決に取り組む「グローバルヘルス」の推進は、我が国に真の安全と安心、経済発展をもたらすとともに、国際社会における我が国のプレゼンスを高めることにもつながる。グローバルヘルスを推進できる卓越したリーダー育成のニーズは国内外を問わず高まっている。

本申請プログラムは、グローバルヘルス領域でロールモデルとなる多くのトップレベル教員を擁し世界最高峰に位置する英国ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）との緊密かつ有機的なパートナーシップの下、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス（TMGH）研究科を中核母体とした先進的な学位プログラムを構築し、“世界を動かし地球規模の健康課題を解決できる真に卓越したグローバルヘルス人材”を少数精鋭で育成するものである。具体的な卓越人材像は、地球規模で生じている健康課題を現場レベルで深く理解し、その解決に向けて技術や理論を構築できる教育・研究能力を有するとともに、学術的知見をグローバルな政策立案・実行等に結び付ける能力を兼ね備えた実践的・社会的リーダーである。（調書P.5）

○大学の改革構想

本卓越大学院プログラムは、本学の世界的教育・研究拠点の人材育成面における中心戦略に位置付けられ、学内の既存研究科横断的な教員組織を構築する点、当該領域において世界のトップに位置するLSHTMとのJoint PhD制度を採用する点で、きわめて先進性の高い取組みである。この目標を達成し高度な「知のプロフェッショナル」を育成するために、学長の下に新たに「大学院改革推進会議」を創設し、そのリーダーシップにより、社会のニーズに適切かつ戦略的に対応できる新しい学位プログラムの機動的な構築を可能にする大学全体の大学院システム改革を断行する。改革の主要なポイントは、(1) 従来の7研究科に閉じた縦割りの教員組織に横ぐしを入れ生命科学、理工学、人文社会科学の3学域に大括り化すること、(2) 自前主義を排し大学の枠組みを超えた他教育・研究機関との有機的な協働による学位プログラム（Joint PhDを含む）の構築を可能にすること、及び(3) 予算や人員等の学内資源の本プログラムへの重点配分を可能にし、将来にわたる継続性を担保することである。この大学院システム改革は、本プログラムの目標達成にとどまらず、他領域における高度な知のプロフェッショナル育成のための学位プログラム創設にも波及することで、本学全体の将来構想実現に向けた強力なドライビング・フォースとなる。（調書P.10）

2. プログラムの進捗状況

- ① 研究の卓越性及び実現性等を審査し、卓越大学院プログラム学生の質を保証するため、LSHTM の運用を活用し設定した Qualifying Examination (QE) 審査基準及び評価基準に基づき、7月～8月にかけて10名の卓越大学院プログラム学生に対するQEを実施し9名が合格した。
各プログラム学生は、QE 審査員である同分野もしくは関連領域を専門とした、業績が世界的に優れている教員よりコメントやアドバイスを受け、研究計画をより具体的な内容へと展開することができた。
- ② 大学院改革推進会議、卓越大学院運営委員会等による効果的なマネジメントを行うため、新たに4月から教育学研究科長及び経済学研究科長の2名をプログラム運営委員会構成員に加えた。2021年度のプログラム学生の募集では、グローバルヘルスをキーワードとした選抜基準のもと、全ての研究科から学生を募集し、医歯薬学総合研究科より3名、水産・環境科学総合研究科より1名の学生を選考委員会を経てプログラム運営委員会にて選抜した。また、既にプログラム学生として在籍している学生の進級についても同様に、選考委員会を経てプログラム運営委員会にて審議が行われ、進級の可否を決定した。
- ③ 本卓越大学院プログラムは、新型コロナウイルス感染拡大以前から、すべての研究科の学生が主専攻の時間割に関係なく、グローバルヘルス分野の基礎知識からの修得が可能となるように、講義室に撮影カメラ・収録マイクを備え、オンデマンドでの講義配信システムを完備している。本講義配信システム (Argos system) に LSHTM をベースとした授業の配信を行い、基礎分野から各論につながるカリキュラムを展開している。
- ④ 昨年度に引き続き、5月から6月にかけてプログラムコーディネーターが TMGH 研究科以外の他研究科の教授会にて LSHTM の研究内容を紹介し、新たな国際連携共同プロジェクト立ち上げのためのマッチアップについて説明会を行うとともに、各教員にアンケートをとり、新たなプロジェクト立案の可能性を探った。また、LSHTM とのクロスアポイントメントで雇用されている教員が、長崎大学病院にて臨床医を対象に、フィリピンのサンラザロ病院とのオンラインカンファレンスを実施、LSHTM で使用しているオンラインシステム (Moodle) の活用法等、グローバルヘルス教育研究に係るFDを計4回実施した。
- ⑤ プログラム3年目、4年目及び5年目に在籍する卓越大学院学生の殆どが海外を基盤として研究を実施しており、本学の海外拠点や LSHTM の研究サイトを活用し、データ、サンプル収集を行う過程において、本学教員をはじめ、指導チームの下で連携先教員及び現地スタッフとの連携・協力を得ながら、課題とする研究テーマに沿って実践的かつ効率的な研究指導が行われた。さらに LSHTM と長崎大学からなる2名以上によるチーム指導を実質的なものとするため、また、喫緊の課題に対応するフィールドリサーチに資するために各チーム指導教員に当該プログラム学生の研究を支援する研究指導経費を配分した。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い本プログラム担当教員で編成されたプロジェクトチームにより、学長許可を最終決定とする海外渡航申請書及びチェックリストの作成を行い、コロナ禍にあっても本プログラムにおける海外での活動の安全性を執行部が確認し、また、不測の事態への対応を想定した運用を正規路線としてハンドリングすることで、遅滞なく研究をすすめることができ、研究の創造性、柔軟性を損なうことがない環境を構築した。
- ⑥ 引き続き LSHTM 講師陣 (常駐教授2名を含むクロスアポイントメント教員計8名)、国内外の国際レベルの連携教員及び招聘講師 (国立国際医療センター (NCGM)、国立感染症研究所他、国内外の大学等より約80名) が、日本人学生と多様な文化背景をもつアジア・アフリカの留学生に対して国際水準の講義を実施している。特に、疫学及び統計学の講義については、国際的に評価の高い LSHTM の疫学・統計教育資材を授業に取り入れ、LSHTM と同等レベルで講義を実施している。
また、熱帯医学の授業においては、本学と LSHTM の両大学が協働で開発してきた、アジアの健康課題に重点を置いた熱帯医学プログラムの要素を取り込んでいる。当該プログラムは、米国熱帯医学・衛生学会からも公認された内容となっており、全体をとおして卓越した教育研究内容で構成されている。
- ⑦ 4月から LSHTM との戦略的パートナーシップに関する自己評価を行うため、本プログラムの担当となっていない LSHTM 教員2名による中間評価が行われた。具体的には、学長・プログラム責任者・プログラムコーディネーター・プログラム所属学生がヒアリングを受け、その中で学生支援体制及びプログラム運営に関するパートナーシップに関しては高い評価を受けた。
さらに、LSHTM の広報戦略部と定期的なミーティングを行い、寄付金を募るための世界的な戦略手順及び LSHTM と共同する海外のグローバル企業との連携を進めており、国内については国立国際医療センター (NCGM) と学術交流協定書の更新を行い、引き続き NCGM の敷地内に設置されたサテライトキャンパスで首都圏在住のプログラム学生に対しても教育機会を提供している。

また、2022年3月6日から3月7日にかけて、日本医学ジャーナリスト協会共催のもと、日英公開国際シンポジウム（福岡）を開催した。1日目は日英両国の政府アドバイザーであり著明な新型コロナウイルス感染症対策専門家（6名）を招聘し講演が行われ、約800名が参加した。2日目は受講生の研究の質の向上を目的に、世界各国で研究を行っている Joint PhD 学生を中心とした20名の卓越大学院プログラム受講生がテーマに沿って公開プレゼンテーションおよびディスカッションを実施し、研究科や専攻の垣根を超えた交流の機会を設けることができた。

- ⑧ 博士後期課程に在籍する本プログラム正規生への経済的な支援については、毎月の教育研究支援経費の潤沢な支給と、研究指導チームに配分する研究指導経費により、資金面においても計画的に研究が実施できるよう配慮している。加えて博士後期課程に在籍する本プログラムの候補生については、教育研究支援経費の支給を行っている。他の奨学金給付等、経済支援を受けていない卓越大学院プログラムの正規生については、教育研究支援経費20万円/月を支給し、候補生については10万円/月を支給した。
- ⑨ グローバルヘルスプログラム運営委員会で決定した募集に関する規程、教育研究支援経費に関する細則に基づいて、卓越大学院プログラム4期生の募集を開始し、熱帯医学・グローバルヘルス研究科及び医歯薬学総合研究科の博士課程相当の学生8名が合格した。各プログラム学生を指導する教員団（指導チーム）に対しては国際連携プロジェクトの運営に必要な研究指導経費を配分し、リサーチフィールドでのデータレクショントリミングまたは新型コロナウイルスの影響により現地に渡航ができない場合には、リモートアシスタンスを雇用しデータの解析、スクリーニングを行うなど、研究プロジェクトを進めることができている。
- ⑩ 卓越大学院プログラムの円滑な運営を図るため、高い英語力をもつ戦略職員1名を雇用し、複数研究科と国籍から成る卓越大学院プログラム受講生の身分異動の把握やカリキュラムの調整等などの教務・学生支援体制を強化した。さらに、補助金支出の適正な運用のため、補助金事業管理部門に帰国子女で英語力、スペイン語力に優れている事務補佐員1名と医療・保健系に関する特別研究職員のキャリアをもち英語に対応できる事務補佐員1名を引き続き雇用した。
- ⑪ 現在使用している講義配信システム（Argos system）の機能面を構築しているフロントサーバに検索、視聴メモリ機能を加えることでユーザー側の利便性を向上させ、さらに世界各国からアクセスした場合でもスムーズに視聴が可能となるようトリミング機能を強化した。また、研究面については昨年度設置した本学の「長崎大学英国教育研究プログラムオフィス」（教育研究拠点）及び「フィリピン共同研究センター」にクロスアポイントメント教員、専任スタッフを配置し、各拠点での倫理審査、研究活動に対して全学的な協力体制を構築している。
また、2022年3月実施のシンポジウムの無料のオンデマンド配信及び採録記事を卓越大学院ホームページで展開し、グローバルヘルスをコアとして世界レベルの人材育成を行う本プログラムの有用性に共感をいただいた方々からの寄付につながるよう、卓越大学院ホームページの有効活用を行っている。
- ⑫ 各研究科から推薦のあった本学教員と LSHTM との国際連携共同プロジェクト立案までを支援するため、医学・保健系に学際的な教育研究交流を促進することを目的に、2020年度に創設したグローバルヘルス研究支援グラントは、2021年度も公募を行った。グローバルヘルスと親和性が高い研究や大学院生の教育支援につながる研究も重視する本グラントには19件の応募があり、プログラム責任者、プログラムコーディネーター、対象研究科の研究科長で構成した審査会にて最終的に16件を採択した。採用された教員は、それぞれ自身の研究活動を英語で紹介する動画を作成し、本プログラムホームページにて公開している。今後はLSHTMの「長崎大学英国教育研究プログラムオフィス」のクロスアポイントメント教員を通じて国際連携プロジェクトへのマッチングを行うことで準備を進めている。

【令和3年度実績：大学院教育全体の改革への取組状況】

・本事業を通じた大学院教育全体の改革への取組状況、及び次年度以降の見通しについて

大学内部局との連携については、学長のリーダーシップにより学内の学際的プロジェクトを推進する「CHODAI共創プロジェクト」と、本プログラムが創設した「グローバルヘルス研究支援グラント」が連携し、本プログラムホームページで採択者の研究分野一覧を提示することで学内に留まらず国際連携共同研究に波及させる体制を構築した。

また、学長のリーダーシップのもと学内7研究科を生命医科学域、人文社会科学域、総合生産科学域の3つの学域にまとめる改革が進行しているなかで、グローバルヘルスの本質は学際性にあることから、学長のアクションプラン2020-2023でTMGH研究科が掲げているDrPHでは、これらの3学域が重なる領域

を「プラネタリーヘルス学環」として位置付け、学内の部局間の壁を越えたグローバルヘルスの発展型としてのプラネタリーヘルスを推進する。

民間企業との連携については、既に長崎大学熱帯医学研究所に創設された塩野義製薬の寄附講座の教員が本プログラムの教育研究を担当している。加えて、本プログラムが主体に運営する前述の「フィリピン共同研究センター」やLSHTMのガンビア研究拠点では、グローバル企業の一つであるシスメックスとの海外共同研究が進行している。

なお、科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業において申請した「グリーンサイエンスの研究拠点形成を志向した研究者育成事業」は、工学研究科生産システム工学専攻の入学者及び博士課程（5年一貫制）グリーンシステム創成科学専攻3年生を対象として、マテリアルと環境工学に関する分野で資源・エネルギー、創薬・分子工学、環境工学とその関連分野における研究推進を目標に掲げ採択された事業である。当該フェローシップは本学が掲げるプラネタリーヘルスへの貢献に対する複眼的視点で新しい知の創出を行うため、本卓越大学院プログラムと共通の方向性と高い親和性もあり、また、工学研究科で当該フェローシップをコーディネートする教員団については学際的な連携推進のために開設した「卓越大学院プログラムグローバルヘルス研究支援 Grant」への参画を行っているため、すでに両プログラム間で高度知識に裏付けされた先導的研究を円滑に展開する基盤が構築されている状況にある。